

## インターバンクの声（2015年12月10日）

特別の材料があったわけではないが、昨夜の海外市場でドル円が11月上旬以来となる121円台前半までドル売りが進んだ。週末の石油輸出国機構（OPEC）総会で、生産目標などの設定が見送られて以降の原油価格の値下がり予想以上に大幅だったことで、リスク回避の動きが強まっていたことなどが背景にあるが、昨晩はその原油価格も下げ止まり、ニューヨーク株式市場でも株価が一時反発に転じた場面でも、ドルが大きく買い戻されることはなかった。来週の米連邦公開市場委員会（FOMC）までは122円台半ば辺りを割り込むことはないだろうと思われていただけに、一旦割り込み始めた場面でのストップロスによるドル売りが想定以上だったようだ。ドルの対ユーロでの下落はドル円に比べれば大したことではなかったが、ニューヨーク・ダウは70ドル以上、ナスダックも70ポイント下落して終えているが、市場の一部はS&P500がテクニカル上の支持線を下抜けてしまったことを気にしていた。つい少し前までは、ドル円がアジア時間にドル売りとなっても、ロンドンからニューヨークにかけて買い戻されることが多かったが、今回はアジア時間に買われる逆のパターンになるか注目したい。

---

提供：SBIリクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複製もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。